

# No. 1130

## 洞くつ寺

— 神奈川 —

洞窟内の壁や天井のいたるところに刻みこまれた仏像、その数は200体を越すといわれる。今尚残る無数のノミの跡が苦修練行を偲ばせる。

三方を山に囲まれ、自然美に富んだ都邑、鎌倉。関東随一の名社、鶴ヶ岡八幡宮をはじめ今も文化財や遺跡が数多く残っていて、訪れる人は後を絶たない。鎌倉から少し離れた横浜市戸塚区田谷町、建久年間、鶴ヶ岡廿五坊より発願開創された真言宗、大覚寺派、定泉寺は静かなたたずまいを見せている。第23代住職渡辺宣昭さんは、今も喧噪な現代社会から離れ、修行を続けている。が今この寺にも観光客が時折姿を見せるようになった。定泉寺境内の田谷山ユガ洞を見るために。

この洞は修行僧が求道の行として掘り造った修禅道場で、延長1500メートルにも及ぶ大洞窟である。江戸時代享保年間には整備されていたといわれるが、詳しくはわからない。関東有数の密教として盛んであったという。

手ぼりの洞窟としては我が国屈指の規模とされるこの洞は信仰と精進の力の偉大さをまざまざと現代に伝えている。

## 都電・裏町を行く

江戸情緒の残る下町の軒をかすめる様に走る都電、通称“下町線”。

かつて東京都内を走った都電は40系統を数え、人々の生活の足となり親まれていた。だが今は、この荒川線1系統になってしまった。連日フル回転で走る車輛は約60輛、点検としばしの休息を取り、次の出番を待つ。荒川線は早稲田から鬼子母神、雑司ヶ谷、庚申塚、王子、町屋を經由、三ノ輪橋まで全長12.2キロ、所要時間約50分で結ぶ。

沿線には下町情緒と共に多くの旧跡も残っている。王子は国鉄線連絡駅。

三ノ輪橋は東の終点。駅周辺の狭い街通りはそのまゝホームにつながる。

利用者に都電について話を聞くと

老人「廃止されたところも復活してほしい……………」

婦人「公害もなく下町情緒がある都電は残しておいてほしい……………」と語ってくれた。

世の中すべてスピード時代、それでも時速15キロの安全運転、熱烈なる声援にいささかとまどい気味に今日も走る。